

Title	中井履軒『非物継声篇』翻刻
Author(s)	湯城, 吉信
Citation	懐徳堂センター報. 2008, 2008, p. 25-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24424
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中井履軒『非物継声篇』翻刻

湯城 吉信

前言

本稿は、中井履軒撰『非物継声篇』の翻刻である。

同書は、師である五井蘭洲の遺志を継いだ履軒が、荻生徂徠に対する批判を展開した書物である。懷徳堂学派には、五井蘭洲『非物篇』、中井竹山『非徴』という有名な徂徠批判の書物があり、ともに、天明四年(一七八四)、懷徳堂から刊行された(ともに懷徳堂文庫復刻叢書で復刻されている)。それに対して、同じく徂徠批判の書である履軒著『非物継声篇』は、未定稿で文字が読みにくいこともあり、これまで翻刻やきちんとした紹介がされてこなかった。

『非物継声篇』は、履軒自身の説をまとめたものではなく、蘭洲の説を拾ったものだという説もあり、いまだ是非の決着を見ていない(注)のも、本書の解説が困難であったことがその大きな要因だと言える。だが、以上の状況を見ればわかるように、本書は、履軒の思想を解明する上でも、また、懷徳堂学派の徂徠批判の実態を明らかにする上でも、重要な資料である。

以上のような状況に鑑み、本稿では『非物継声篇』の全文の翻刻を行う。

解説できなかった箇所については、博雅の士のご教示を賜りたい。

(注)「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」(『懷徳』十七、一九三九)は履軒の著とするが、加地伸行編『中井竹山・中井履軒』では、履軒が蘭洲説に対する疑義や意見を記したものだと考えているようだ(一九〇頁：山中浩之氏執筆部分)。一方、陶徳民『懷徳堂朱子学の研究』(大阪大学出版会、一九九四)は、『非物篇』に漏れた蘭洲の説を履軒が輯録したものとする(二〇三頁注六)。湯浅邦弘編『懷徳堂文庫の研究2005 共同研究報告書』四四頁の藤居岳人氏の『非物継声篇』解題も陶氏の説を踏襲する。筆者は、『非物継声篇』は履軒が自説をまとめたものだと確信する。この点は、別稿で述べたい。

『非物継声篇』の著述形式

まず、該当章名を挙げ、字を下げて徂徠『論語徴』の発言を取り上げて、その後に自らの批判を述べる。

六葉裏までは半葉十行二四字で丁寧に清書されている。叙述形式は、まず「一」章曰として徂徠『論語徴』の文句を抜き、改行後、自らの批判を述べる。ただし、余白に後に加えられたものだと思われる小字による書き入れも多い。七葉表以降は、塗抹、見せ消ちが多い草稿だが、章の後に字

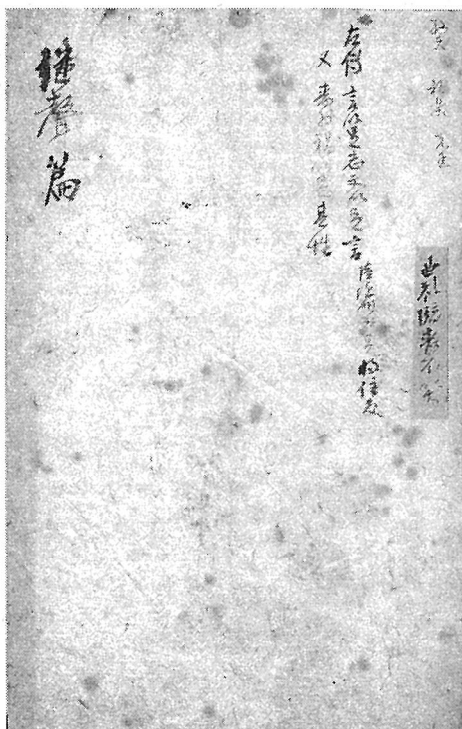
を下げて徂徠の文句を引き(省略が多い)、その後改行して自らの批判を書くという形式は一定している。

『非物継声篇』の書名

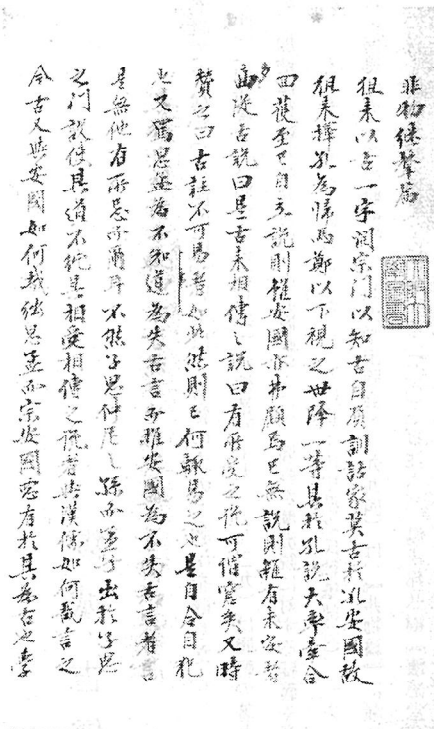
書名は、原表紙、後表紙ともに「継声篇」とだけある。ただし、序文の後の本文冒頭には「非物継声篇」とある。

凡例

- ・漢字は現代通用字に改めた。
- ・適宜、句読点を施した。
- ・引用部分には「」を、書名には『』をつけた。
- ・葉数は「3a」(＝三葉表)のように示した。
- ・〔入紙〕〔追加〕など、本文にない追加情報は「」で括って示した。
- ・塗抹、見せ消ちは非常に多く、解説の困難なものが多い。解説可能で重要だと思われる見せ消ち部分のみ、取消線を施して翻刻した。
- ・本文の後に、【校勘】として、適宜、校勘をつけた(本文には「*」で明示)。
- ・解説に自信のない箇所は、直後に(?)を挿入し、解説不能箇所は「□」で示した。



『非物継声篇』原表紙



『非物継声篇』冒頭

之非正也。汝其勉学焉。毋恤其佗。其既能識正論之為正乎、非正論之非正、乃可以究矣。余唯々而退。又見於蘭洲先生而問焉、而誨之亦猶先君子之言也。既窃読先生所著『非物篇』、略識物氏之非。後在友人許閱『物集』又識其不工於文辭也。欠伸不能終、至其『論語徵』、愈益厭之、擲卷不復閱焉。今茲奉先生遺命、校定『非物篇』、不得不比校〔1b〕於『徵』及『二辨』。於是乎、詳其始末、究其闕奧、其學術之褊以至志意之微。夫紕繆所由始、与愼戾所以終、一無逃吾鑑也。乃恍然有省、嗟呼、懿哉、昔人之誨吾也。使余詠是書在十年前也、未必無小眩惑也。宜也乎、程夫子、所謂仏之說避之宜如淫声美色、為学者言也。物与仏、其言猶氷炭而所以惑世害人心者一也。凡其說『非物篇』詳焉、無復遺憾。然執役之際、時觀泄綱之鱗、則口不能自噤、手不能自掣、輒録校篋中。役畢、就轉次、命曰繼声篇。因述昔人所以誨吾者、以詔道学小子。

〔校勘〕○始：「起」を見せ消ちする。○眩惑也：この後に「夫古之善為戰者、先自為不可勝而後策勝敵、其亦有似哉」を塗抹する。○泄綱：張り紙に書かれてゐる。下には「跋扈」とあるようだ。○因述：所以誨吾者：「因記吾所藉昔人之懿訓于此」を塗抹して書かれてゐる。

〔2a〕

非物繼声篇

徂来以古一字開宗門以知古自負。訓詁家莫古於孔安国、故徂来扞孔為婦、馬鄭以下視之世降一等。其於孔說大率牽合回護。至己自立說、則雖安国亦弗顧焉。己無說、則雖有未安者、多曲從古說曰「是古来相伝之說」、曰「有所受之說」、可謂審矣。又時贊之曰「古註不可易者如此」、然則己何輒易之

也。是自令自犯也。又罵思孟為不知道為失古言而推安国為不失古言者。是無他、有所忌而爾耳。不然、子思仲尼之孫、而孟子出於子思之門、設使其道不純、其相受相伝之說者、与漢儒如何哉。言之今古、又与安国如何哉。細思孟而宗安国、惡有於其為古也。学〔2b〕者有見于此、庶幾弗蹈其陷穿矣、而思過半。

〔校勘〕○又罵：不失古言者：張り紙に書かれてゐる。その下には「其援莊列諸子及漢儒之書輒曰古言然也。至於思孟之言、獨為失古言」とある。

徵曰、「論」属之弟子、則『国語』『家語』何別。『齊論』『魯論』何謬。非曰、『齊論』『魯論』是『齊論語』『魯論語』之略言、竭後之語、童子且知之、何物翁之自紛。

其族有為大夫者、則「子」婦之。其它否。烏知子貢子路游夏之儔、其族不有為大夫者乎。

字連子称之達于古今通于上下、猶称「甫」也。非大夫之族、則不得字連子而称焉、是出于何伝記。

〔入紙一葉〕（*入紙はすべて学而篇）

慎終追遠曾子語——為安民而設故爾。

行文潦草、意不分明、似謂先王制喪祭之礼、非徒然、民情好厚有厚德者、民婦服之、先王欲民之婦服于我也、故特制喪祭之礼、以厚自居以誘民也、果然喪祭非誠敬以為之矣、乃誘民之具耳。宛然霸者之權教矣。仲尼之門、童子羞称焉。曾子孔門高第弟子而不之羞耶。

〔入紙二葉表〕

万乘千乘百乘、古言也。

『論語』『孟子』諸書有万乘千乘百乘之目。皆据當時而立言也。非以始封之制而論也。其為數雖舉大概也、亦非絕無計較者。千里之賦出万乘、三百餘里出千乘、百里出百乘、定數也。故百里内外則謂之百乘、千里内外則謂之千乘、非諸侯概為千乘、大夫為百乘。且万乘定為天子之稱者、後世之言耳。『孟子』不言乎、「以万乘之國伐万乘之國」、齊与燕也。又言「方千里者九、齊有其一」。又言「孟獻子百乘之家」、獻子之富略有百乘也。徂来又引千金之子*為証。然此却足証其說之比也。今有富者、其貲不滿百金而稱之為千金*之子焉可也。貲必千金内外、乃謂之千金之子耳。不探其囊、亦略可知矣。抑魯之三桓、晋之六卿、可謂富耳、而三晋則大矣、尾大之患、於魯侯在軋侯康叔絕祀見之。徂来乃以尾大病之何哉。彼必以周之制度而言耶。齊魯之始封儉於百里、則國唯有百乘耳。焉得稱大夫為百乘。彼之說無一当。

〔校勘〕○千…「万」を消す。○比…「非」の誤りか。○千金…この後に「且貲百金資為富、故稱富者必以千金耳。亦豈須探其囊哉。如徂来可謂味乎古言」と挟まる。○耳…「矣」の上に書く。

〔入紙二葉裏〕(朱筆)

弟子入孝章

集注援尹説論本末、又援洪説論文質、其意略足而有未透徹、故又發一段言、

非但失之於野而已。其言文之不可以不學也。徂来所謂「未免為鄉人」之意、既備於集注、而本末之義文森然不可紊矣。徂来説集注、不知作何解、而為此曉々者哉、蓋亦味乎文理之故爾。

賢賢章

徂来曰、凡由致者、皆謂使之至也。是固然也。唯至亦有主義。使彼至于此者、「致雷」、「致福」是也。使此至于彼者、不可相混矣。又非彼非此使之至極者、「致敬」、「致哀」、「致中和」是。

〔入紙二葉下〕

○学而

信近於義章曰、「復」協「辱」、「親」協「宗」、易象之辭為爾。

〔3 a〕

〔復〕可以諧〔辱〕、「親」〔宗〕則不諧。彼妄証易象可憎。易象無以〔親〕字「宗」字為韻者。

又去、「朱子以為有子誨人之語者、誤矣」。「為」字当削。不然不可讀。即必用「以為」字、当言「朱子以有子之語為誨今之語、誤矣」。

彼由負古文辭、而操庸音、而其為和訓所誤、往々如此、人真(？)察諸。

○為政

道之以政章曰、「感」「格」声音相通。

「格」豈与「感」音通哉。妄說可惜。彼染指象胥者流、輒囂然以知音自居、動模糊呻吟撰出古音以濟其邪說、是無佗、為象胥者流所誑也已。夫象胥亦烏能知音。世人以其常与漢客居也、無容疑爾、特不知其漢客本不知音也。李義山「雜箋」以「閩人說書」在「不可曉」部中。漢客來販長崎、大率閩人云。王充有言曰「跣跗被商烏重詠吟詩書」。徂來喜漢儒之言、蓋省焉。

〔3b〕

志学章曰、六十而耳順、人雖有逆耳之言、其心以為彼之過、我之不以為逆也。

如是則孔子六十以前每有逆耳之言、輒怒不能容也。吾未見如是小量聖人也。

〔追加〕(朱筆)

徵曰、志于学云者、孔子在学而有所志也。又曰、孔子之立、謂学之成也。

○以「志学」之「学」為「学校」、文意不順、甚矣。且經文有「学」字、則彼必以為「学業」、經文無「学」字、則彼必以為「学業」、其悞如此。是無他、強欲異于先儒之故耳。

【校勘】○為…「力」に見えるが文脈から「為」とした。横に「非」と振られてい

〔追加〕(朱筆)

不器章

包氏固不以「君子」定為「人君」、何有人君自用之嫌哉。徂來僻見以「君子」為「人君」、然後病包氏以人君自用之事、誣亦甚。

〔追加〕(朱筆)
知之為知之章

徵曰、以不知為知者不知之失也——

經其不知為知者自古有之、唯性之剛者多有是病、非必不知之故。近世亦不乏是人、而徂來可以(？)尤者、乃謂「不知之失」而非欺罔、豈彼自為諱也邪。

舉直章曰、舉直錯諸枉、枉錯諸直、蓋古言也。而孔子引之也。『孝經』曰、「非先王之法言、不敢道」。古之道若是焉。後儒不知迺謂聖人以意造言、謬矣哉。

然則「学而時習」至「不知言無以知人」句々皆古言耶。雖徂來之執拗、亦不能舉『論語』為古言也。但觀字句古瘦肖『尚書』周官者、輒目為古言、律以『孝經』、強孔子以非先王之法言、不敢道。然彼〔4a〕誣為古言者『論語』中万分之一而已。其餘孔子之敢言也、則孔子非邪。夫孔子周人也。奚嫌於言之古、充徂來之言、孔子不能吐一句肖『尚書』周官也。又不得造一句教誨之語、終日与人辨論句々拈出先王之法言、若李攀龍作文章然、不亦厲乎。

【割注】觀過章、三年無改章、主忠信章、狂簡章、樂山章、為山九仞章、剛毅木訥章、不逆詐章、子貢問為仁章、堯曰章、徂來皆以為古言、可參看。

〔追加〕

徂來每主張「作者之謂聖」之語以為孔子雖非作者以其德堪作礼樂、故謂之聖。据彼之說、孔子之才之德得位則可以作礼樂、未得位則不得造一言語也。天下豈有是理哉。

書云孝乎章曰、朱註解「乎」為如「此」、大誤矣。

按朱註書云孝乎者、言書之言孝如此也。是以意釈之如此、二字正指、惟孝

友于兄弟二句、未嘗以解「乎」字、則「乎」字依然疑而定之辭矣。未嘗解「乎」為如此。徂來鹵莽讀書、其不通於文理如此。

〔追加〕（朱筆）

輓輓章

徂來ハ信ノ字ヲ信向ノ信ニ説タリ。駁スベシ。

〔4b〕

○八佾

林放章曰、大抵宋儒忽略字義、遷就以成其說。

徂來每言宋儒据字義為解、不知古言、今忽反其說、吾不知其所謂。

〔追加分〕

雍徹章 都兪吁咈

禘自既灌章曰、「灌」「盥」「裸」通用。

推「盥」混於「灌」、可謂妄說。夫祭祀宴享之禮、皆盥以潔手、即以「盥」混於「灌」、則洗手謂之何。

又曰、何註以來以魯郊禘非禮為說、不知何以知其為魯邪。

魯有禘祭而孔子嘗觀之、故申「吾不欲觀之」。若周之禘、孔子焉得觀焉。固無得欲觀不欲之語、豈不彰々明乎。

〔5a〕

又曰、夫灌而易能乎、則易何以言觀盥而不薦乎。盥而不薦有孚顛、若凡行禮之人皆然。故易取之為觀象耳。豈難能之謂耶。殊為不通。

禘說章曰、古註云々、是不知「示」之為「眎」也。「其如示諸斯乎」、

如視天下於掌也。『孟子』曰「武丁朝諸侯有天下、猶運之掌也」。語勢相同。

是攘朱註為己物、傲然若己獨知之者。如是之類不遑枚舉。徂來門人大率浮躁、或狂妄藍出至有終身不知朱註一句、輒拳「示」之類、「眎」之類、抗言曰「是吾師說、一洗万古者、宋儒無瞳曾不窺一斑、真不堪捧腹、抑亦徂來之罪也。

王孫賈章曰、以知天自負豈不倨。

〔5b〕

己不知天、故嫉人知天。一生講學老死不知天、亦可憫矣。乃自以不知天為是、其陋弗可藥。

周監於二代章、駁仁齋而曰、孔子引林放、豈非惡其奢耶。

凡與人辨論、引彼之嘗所是、以喻今所非之非、引彼之嘗所非、以喻今所是之非、可也。如泰山惡奢之說是徂來之臆說、仁齋未嘗有如是說也。乃拋以規仁齋曰、豈非惡奢耶。仁齋必曰、固非惡奢矣。是烏成辨論。如徂來、可謂不知言語之道矣。

射不主皮章曰、朱子蓋疑「為力」之為「力役」、遂以「主皮」為「貫

革」耳。

抛彼之說、当云「疑『為力』之非『力役』」。彼累於和習如此。

告朔章駁仁齋曰、此其人尊孟子過於孔子、故為此言耳。

[6a]

仁齋謂『論語』為宇宙第一書、徂來豈不之知乎。蓋舞婢之詬罵往々過夷云。

事君尽礼章曰、勇者有所矜而言激。

是句於上下文無所当而妨其本說。蓋彼剽窃為文務眩人目、故不知不觉至于
是耳。

○里仁

〔追加〕

志仁章

微曰、孔安国曰、苟誠也。其為語助矣。

朱注沿孔注作誠實解。其於本文之当否姑置之、孔注朱注無二義矣。彼駁朱注而襲孔注、以為莫尚焉、何哉。且言孔曰誠能審其為語助矣、夫以誠字為語助、古來所無。

安国復生、必抵手称怪者。徂來一生依安国作生活、其於安国之說、必牽合附会以称己(已)。(?)。抑解誠字為語助者、亦自累於諺音云爾。豈可不憫笑哉。

未見好仁章曰、「乎」猶「則」也。朱子以為歎辭、非矣。

「乎」詰問之辭、訓「乎」為「則」、妄說耳。以為歎辭、集注無之。

一貫章曰、如男唯女兪(内則)、「兪」訓「然」、則「唯」亦「然」。

「唯」「兪」並然之之聲、故「兪」訓「然」、亦解其意耳。其実与「然」不同。徂來〔6b〕自負知音乃是之弗能察、將焉用之。又引「正唯弟子不能学」、牽強之甚。彼章「唯」与「惟」全。

又曰、先王之道、先王為安民立之、故其道有仁焉、有智焉者、云々、

有礼焉、有樂焉、有兵焉、有刑焉、制度云為、不可以一尽焉。

徂來惡仁義礼智備於性之說、以為道者先王作之也、無人心固有之理。是与荀子性惡善偽正同、而不敢謂荀子為是者。豈其妬心耶。抑不能喻荀子之意耶。漢士姑捨之、吾邦 志仁以上未有經典也。然亦有君臣焉、有父子焉。既有君臣、斯有礼義。既有父子、斯有孝慈。其所以治国家者、必有法度者、其所以戡禍難者、必有兵刑者。

〔校勘〕○焉…『論語微』原文「者」。○この横に、小字で「以上、『非物篇』附録詳之」とある。

〔清書と思われるのはここまで〕

〔7a〕

其所以戡難、有勇焉者。其佗衆德皆然。又有歌謠相応和而樂存焉、豈必待聖人作之而後有焉乎。是知先王作礼樂者、制礼樂之法方而已矣、非礼樂生於先王也。彼謂過為先王立之、則先王以前無道也。即無道必無君臣、必無父子也。彼亦盍視諸吾邦。

〔追加〕里仁十室章乃云、学者天性也。凡有一美、人必倣效。聖人循此性而建學問之道。

何其言之相矛盾也。

夫人有一美、何故效(？)之世、非已有善善之心。善善之心豈非人性固有之善耶。

又曰、儒者之道

「又」字何所擬。

○公治長

〔*〕「雍也」而不佞「章」

能言者不能為、能為者不能言、自然之符也。

自古有能言又能為者。周公、孔子、是也。何謂「自然之符」也。「自然」句當削。且「能言者不能為」亦不成語矣。「不」下當有一「必」字。下句倣之。

〔7b〕(不堪為辨)まで朱筆)

△「微曰、南容為三家之族、三家者值有道則必廢——

「邦有道而三家必廢」者、殊不可曉也。夫三家魯之宗卿、何罪而可廢黜也。唯其專恣太甚、有賢君出、則滅損之收其威柄、可也。何必至於廢斥下之間伍也。据徂來之說、是比今之諸侯而殊(誅?)之、不復待教誨也。大殊其平日之論。又曰、聖人豈絕無避嫌之事乎。遂引札文、証之、是大暗於文理矣。札之「決嫌疑」與「避嫌之事」異真、如「男女不親授」「嫂叔不通問」「入內不嚙不指」之類。所謂(？)

△「決嫌疑」也、是積禮之意云爾。若其「避嫌」云者、人不敢薦其子弟親戚、故人避立私之嫌也。薄於己之子而厚於兄之子、避溺愛之嫌也。凡是之類、皆帶勉強之意、故程子謂賢者且不為如第五倫省病事、可以見矣。男女嫌疑之事、是禮口(中?)之意、非程子之意所及、徂來乃引柳下惠立論、

既大失駭、不堪為辨。

子路有闢章

微曰、「唯恐」者門人之——

孔子曰「学如弗及、猶恐失之」。文法正同、此類古書甚多、皆一草謄下者未析下句屬記者(？)之語矣。

〔8a〕

季文子三思章

微曰、季文子三思而後——再斯可矣。是孔子斷其妄已。言季文子惡能三思、苟能再斯可矣。

是章言凡事區已定、可否已決、然後更審思之、以察其能無妨碍疵累、斯謂之「再思」。「再思」既察可謂完矣。乃更復一審、斯謂之「三思」、是過慮已。過慮則惑。文子蓋謹慎鄭重不敢輒作者。時人譽其三思而行而不知文子受病在於過慮生惑也。故夫子斷之曰「再斯可矣」。然其決可否定區處非思不獲者、雖乃千思萬慮、夜以繼日可也。皆一思中之事、与再思三思無相涉。故朱子曰「思之有未得者、須着子細去思。到思而得之、這方是一思」。徂來所援証以「思無益不如学也」「欽明文思」「思曰睿」「心之官則思」「思兼三王」、皆是「第一思」之「思」、非「再思」「三思」之「思」。夫子何禁之為。徂來鹵莽謄書、故不能察文意、謂据程朱之解、是夫子禁多思与諸經伝不合、殊不知夫子所誠、唯〔8b〕決後之三思而不在於未決之多思也。

〔校勘〕○區處：「思慮」を見せ消ちして書く。

〔*〕伯夷叔齊章

[9a]

楚滅同姓、田氏篡齊

春秋之時、滅同姓者衆矣。如晉滅虞虢、衛滅邢、不獨楚。且滅同姓國與弑君而篡國、大有徑庭。據彼之說、田齊數世之後、謂為有旧惡、猶可也。滅全姓之惡、安容論於數世之後。言語失當如是、何古文辭之有。

足恭〔*巧言令色章〕

徂來又引易象、然過恭與足恭殊、過恭猶甚恭也。足恭乃故意憎添乎恭敬以釣人之歡耳。是自(?)在心術上。徂來所不知。

○雍也

「可也」一句、「簡」一句。不爾、不成語。

是暗詆朱註。然朱註解「可」字有異耳、句說不異也。徂來〔9b〕「龜性誑書、亦可笑。」

〔追加〕

徵曰、孔安國曰「以其能簡、故曰可也」。古註不失古義如此。

彼稱揚古註、欲以貶朱註也。然朱註意亦如是已。『語類』曰「夫子云、此人亦可者、以其簡也」。徂來又云「朱註云々、其意如謂夫子雖許之、尚慮其失於簡、故曰『可也』」。是大失孔子之意。誣亦大甚。

雖廢亦在道之中〔*「再求曰：中道而廢」章〕

徂來不知譬喻、誤以「道」為「道芸」。種々疾痛、自是而生矣。今皆不辨。

祝鮀章

〔佞〕古称口才

當孔子之時、世俗以佞為美称、曰「雍也仁而不佞」惜之也。孔子則惡佞曰「焉用佞」曰「遠佞人」曰「佞人殆」。蓋深絕後世學者守孔子之教、莫之變也。徂來則以〔10a〕佞為美德是古言也。而孔子之時之世俗之論也、非孔子之意也。乃以解孔子之論、不亦謬乎。後世學者篤尊孔子言、必折衷乎孔子。徂來則唯古言是尚、不問當否、後之言雖正義而廢之、古之言雖俗論而取之、遂詆後世尊孔子者、又拘灣孔子之語以自附。蓋孔子所謂佞、徂來其人也。

〔校勘〕○是：横に「真」字あり。

由戶章

戶聖人所作

雖穴居者、豈無出入之竇也。竇即戶也。出由戶、豈必謂扇與闔之謂耶。夫不知文理者、安足與論文焉。

〔校勘〕○闔：闔か。闔か闔かどちらかを見せ消ちする。

〔10b〕

「謂為自然」句不成文理。

文質章

「大過」、過也。「小過」、不及也。

『易』曰、「山上有雷、小過、君子以行過乎恭、喪過乎哀、用過乎儉」。未

聞以「小過」為不及也。

中人以上章

道莫有上下

道固無上下。然有上智所知者、有中人所知者。故中人不能知者、名為上焉耳。譬之病人、其羸瘦辟易不待医而知焉、而其所以致羸瘦辟易者、非良医不能知矣。病豈有上下精粗。亦從所知者而言焉耳。故道一也、而有上〔11 a〕下、有精粗、岐之不可也。徂來之徒、安足与知諸。

聖人之道微、而邪說興焉、中人以上之資、亦相率陷沒焉。程朱子所以反復丁寧焉者、欲有人救之而已。豈聒於下愚之人耶。說其書可見矣。余竊疑徂來以博學自負、然觀是等語、似目未嘗經程朱之書者、何也。

徂來又解中庸章句、中庸謂不甚高而易行也。聖人之道更有不大焉者、有精微焉者、有高明焉者。故以中庸為道者、非也。

〔11 b〕

○述而

默識章

〔力〕字句絕

協韻句絕、不待徂來而知也。然彼以諧韻為「帝之力」句、意為(?)上文之証。果如其說、則『毛詩』不可讀者、多矣。其說之牽強、不足辨矣。

德之不脩章

〔脩〕者務美之也。

夫「脩」者修復之義、必有所承之言。如「脩飾」「脩潔」「脩治」、掃塵除垢使潔淨、謂之「脩」。傅粉施紅之類、謂之「飾」。字各有當也。彼之引〔12 a〕此、祇授人穎而已。『左氏』所稱「修好」「修怨」之類、不知彼何辭解之也。蓋修身也、修德也、可以見人性之本善矣。彼不知性善之說、宜平、其說之窮也。亦可憫笑。

夢周公章

仁齋之於宋儒、一如弘氏、所謂有宿冤者邪。

徂來於宋儒其得宿冤耶。蓋自省焉、乃詆仁齋乎。此之謂獼猴唾臂之殷。

〔12 b〕

志道章

私欲盡去、苟不仁乎、則達磨矣。

人而不仁、以其有私欲也。私欲盡去當不仁、未之有也。蓋私欲盡去、則所存者何耶。曰、公也。即仁、即天理、則豈有不仁者哉。彼動以達磨嚇人、是以達磨為私欲淨盡者耳。殊不知達磨者私欲之魅也。蓋達磨所能細者、特耳目口鼻之欲而已。其所以細耳目口鼻之欲者、以其有私欲大於耳目口鼻之欲焉者。然徂來之徒安足以〔13 a〕知之。

〔*「用之則行」章〕雖有至德、苟不知先王之道

不知先王之道、而有至德於身者、吾未之聞也。彼豈以口解(?)老莊達磨之類、為至德与、則辭失倫、若孔子所稱、曰周、曰文王、曰太伯、是已。?

伯夷章

不以喪位為怨、歸仁人而樂之。

若徂來之說、是伯夷之怨、西伯之賜也。設令當時無西伯、伯夷求仁而弗得焉、則吞怨而入地者、其何賢〔13 b〕之有。孔子輒周天下、而無所遇、夫豈不欲得西伯而歸焉。弗得也已、徂來豈以孔子為怨耶。

發憤章

〔云爾〕、〔云々〕、〔爾々〕、古言相通。

徂來之不知文辭若斯、宜其著作之不可誦矣。

非生知章

〔*朱注〕「敏」速也。謂汲々也。此解殊模稜。

「汲々」唯恐不給之意、与「黽勉」稍不同。彼同執「黽勉」解、故為模稜耳。

「敏」之所以為「汲々」者、非本有敏速之義耶。何模稜之有。

互鄉章

朱子疑其有錯簡闕文、亦不識古文之過耳。

〔14 a〕

是章為錯誤決矣、「与其進」二句当在「不保其往也」下、則文意甚順。徂來之說不待辨、而其不識古文之過、不足責矣。

〔校勘〕○責…責（たまう）のようにも見える。

陳司敗章

可謂非若宋儒所謂「一疵不存」之比矣。

行文拙甚。「可謂」二字当削。

文莫我猶章

上有「也」字、下無「也」字、下有「則」、上無「則」、是「文」与

「躬行君子」对言者非也。

以「則」「也」有無証对不、是何足也。淺哉、徂來之為古文辭也。

〔14 b〕

聖与仁章

是或人贊孔子——故知此必孔子承人贊之者也。

是攘朱註晁氏說、乃辭氣橫發、若独知者、可憎。豈欲以嚇晚学小子邪。抑自欺也。

〔追加〕

堯舜禹湯周公云々。

彼見文武之不制作、意謂不是聖人。雖不敢公然作說、然視其列叙先聖而不及文武、則其意亦見矣。堯舜禹湯周公、豈有此語哉。是徂來之私言、侮聖之甚者。文武既（？）亦聖、則孔子亦作聖、所以徂徠於孔子之聖嘗費分疏、祇見其窘。

「唯」「是」也。「正唯」如後世「政爾」。

「唯」与「惟」同。古來未有訓「唯」為「然」為「爾」為「是」者。若「男唯女俞」並稱諾之声。亦不日訓為「然」「爾」「是」。

請禱章

〔假爾泰筮有常〕〔*「礼記」曲礼上、「儀礼」少牢饋食礼〕。

〔15 a〕是「爾」字亦「女爾」之「爾」指筮而言、如『毛詩』樂女無知之

類已。徂來援之証「爾」之為助辭、正自毀也。

○泰伯

周家必張而不臣之迹成矣。——

「三分天下、有其二、而服事殷」、西伯純臣也、徂來豈以文王為不臣耶。誣聖之罪不容誅。

蓋民之附泰伯、如蟻慕羶。

德如斯、何以知其不及文王也。且是語無以徵、特其臆度云。何無定見至乎此。

〔追加〕

上文既云所謂泰伯之德足有天下——宋儒不信孔子之言而求至德於其外、豈不謬哉。

下文乃云民之附泰伯如蟻慕羶。

是猶非不信孔子之言而求於其外哉。抑天下之民附之如蟻慕羶而不有天下者、吾未之聞也。其說之矛盾有如此者。

〔15b〕

不在其位章

辟如登浮屠——必有昧乎事而誤焉者也。

是徂來自謂也。曹劌有言曰「肉食者陋矣。不能善謀」。夫位愈高識愈下者、滔々皆是也。焉得以浮屠為譬。徂來見識之陋、豈為其位下耶。又曰「身不任而輒言之、非所以敬天也」。謀本与言殊言之、豈罪也哉。果如其說、孔子亦不敬天者。矧其他乎。至其所著「政談」一書乃夷不敬天之長者、不知彼何辭以自

解焉。且其書談當世之務、往々撻刑不〔16a〕字之遺、或迂闊弗可行者、乃自以為先王之道。浮屠之譬、昧乎事而誤焉者。猶信彼豈以己之如斯、遂欲以蔽千古聖賢乎。可笑。

狂而不直章

朱子引蘇氏——亦失之。

引蘇說正以解上三句之意。「吾不知」之句、本註既詳之、何必重複容無用之辨。是朱子之註法可謂精矣。夫以教為解、雖徂來不能不拋「吾不知」句、蘇氏說中有一字及其句者耶。蓋蘇氏別有解、〔16b〕是句教語而削之耳。彼蠢性不能矚矣。

〔校勘〕○為解…消しているように見える。

大哉堯章

蕩々乎民——乃允恭克讓也。

堯之德不可名焉。只得曰「允恭克讓」、形容其一端耳。之四字豈足尽堯之德哉。

上有也字、下無也字。

無「也」字是分明脫文矣。古書如此者、不可枚舉。彼乃枉為之說、何其陋也。

不過於利用厚生之事已。

彼每執「作者謂之聖」語、以鑑定千古之聖、以為不作札樂、雖〔17a〕有德、不足為聖。此乃言「伏羲・神・黃帝不過於利用厚生之事已」。利用厚

生既非礼樂作者，豈足以為聖乎。其說之相矛盾，何至于此。

【校勘】○神：『論語徵』原文では「神農」。

○罕言章〔*子罕〕

〔*首章〕

唯見義理所在——充其蚯蚓之操，悲哉。

唯見義理而不問利害，何害於道。与孔子所謂「殺身成仁」何殊。充其操必為聖人而後已者，未知何以至於離世絕物。達磨惠能之術，所以傾倒一世者不過於利害二字，亦未知有義理者，蓋其相反如冰炭。然徂來何言之悖焉。是無他也。彼非特不知宋儒，而又不知達磨惠能也已。

〔17 b〕

宋儒唯見義理所在，而不問利害。故非其義也，一芥不敢取，与以独立于衰弊之世往々轉軻困約（？）而身不失為君子。徂來唯見利害而不問義理，故失身于權倖之家，而食不義之祿，白首講學而名不登于君子之籍，亦各行其志而已矣。所謂「道不同不相為謀」者，豈是之謂耶。

鄙夫章

何晏何故作此迂曲解——古時之言蓋有之。

為古時之言有微乎。為相傳之說有微乎。是皆無稽之語矣。是無他。徂來於是章不得解，故勉強從何註從為之辭也已。朱註之平易得其解也。何註之迂曲不知而作也，即謂何註皆古來相傳之說，則徂來何不悉從何註往々証之也。縱令古時〔18 a〕實有是言，而出於老莊之言，害於道，焉可用解『論語』乎哉。況不可必平。凡徂來所稱相傳之說悉其遁辭耳。

偏其反章〔*末尾，唐棣之華章〕

孔子解詩之言——

孔子之語是翻也已。翻譯為不遠，猶翻藏為不藏也。即以是為解詩，則左右采之不采耶。鐘致樂之不樂耶。不通之甚。

○鄉党

召使擯章

學者徒讀新註，至此章茫然。

朱子豈禁學者不讀三礼耶。夫礼之名物度数繁浩，固宜於三礼詳考之。讀『論語』固非其急，故註舉其大綱也已。所謂「茫然不識」學者不讀三礼之過耳。朱子晚年於三礼最尽心焉，『經通解』〔18 b〕之述，徂來豈弗之聞耶。乃謂程朱出而礼樂移北，不體之甚。彼又引三礼煩數為說，於是章之意，何所增減耶。抑亡論程朱，凡學者熟讀三礼，因辨其儀容文物，當讀『論語』，則學其躍如勃如鞠躬踞踖愉々与々如也已。未嘗「茫然」也。彼基（？）古註之焉得夫煩數哉。煩數者皇邢之疏，是也。夫學者不讀三礼，而求儀容文物於『論語』之疏，不亦末哉。拋失註當是，使人讀三礼也。若疏及徂來，謂不必讀三礼也。當言熟三礼而後『論語』可得而言即熟三礼者焉須是喋之哉乎。

席必遽坐

席者燕居——齊以立為主故也

〔履軒見世消ち約十三文字解讀不能〕

[19 a]

○先進

長府章

如刑罰中、亦謂古典也。

言之妄有如斯者、刑罰中乎古典、豈成語乎哉。刑罰中乎罪、不可謂中、則射中乎的、不可謂中也。及上文「聖人之道、有倫、有慮」云々、可謂睡語矣。

善人之道章

如「大王肇基王迹」言至大王而始踐古先聖王經營天下之迹也。

是詩自後稱之言、文武之王道始于大王、故謂之王迹。如徂來之解、「迹」字猶可言也、「肇」「基」二字不通。夫「基」者立基趾也。始云基趾而做先王、豈成語哉。徂來之塞塞不亦甚乎。

[19 b]

○顏淵

克己章

非礼者謂似礼而非礼者也。『孟子』所謂——可以見。

是解之妄、弗復待辨矣。

仲弓問仁章 司馬牛問仁章

如徂來之解、是誨仲弓以為國君後之事也、非當身之事。如是仲弓雖有才與德與志、未為國君、則雖欲行仁而不可得也已。且也匹夫舍其當身當為之事、

懸度學國君之事而師也亦以是為教、不亦不隨之甚乎。

蓋徹章

及其曰「二吾猶不足」而有若悟哀公之意。故言——

然則有若「蓋徹」之對妄對失言耳。而後言回護牽合之說〔20 a〕也、可鄙矣。不足尚也、其何記在『論語』也。又曰「不爾問答不相忘」、豈不誠迂乎。咄、徂來亦猶哀公耳。

成人之美章

學者忽觀此章、必沮壞其惡。又云、朱子之解或有是弊。

本文曰「君子成人之美、不成人之惡」。無毫髮沮壞之意、自有『論語』以來、亦未嘗有作沮壞惡解者。徂來豈當謬解不成為毀耶。不則何誣學者之至此也。朱註亦無毫髮沮壞之意。可謂誣駁。

樊遲舞雩章

樊遲錄而地焉、後君子從而弗削焉。

徂來以是章為本出於樊遲手記、有何徵也。其妄有如斯者。

[20 b]

○子路

泰而不驕章

仁齋未免倭訓詁字抗志解古文、可謂不自揣之甚。

衛靈又（？）「矜而不爭」条下又駁仁齋而曰「是其欲刪朱註別成一家者、豈非立異以為高哉。悲哉」。夫子自道也。

○憲問

莫我知章

天命孔子以佞先王之道於後世、而不使行道於當世、是天之知孔子也。

徂來豈謂傳道於後世孔子之所長、而行道於當世孔子之所短乎。誣聖不亦已甚乎。且如其說、孔子歷聘周流於天下求道於當世、無所遇而歸魯。年既六十有八、乃始刪定六經為佞於後世之計、何聖人之不知天命之甚也。然則其五十知天命云者、非誇言邪。

[21 a]

闕党童子章

「曲礼」曰「問士之子、長日能典謁、幼日未能典謁也」。童子將命、亦古之道也。

士位卑乏於使令之人、故子長則亦可典謁耳。典謁豈必童子之職也耶。大夫以上不乏於使令、豈必使童子充其職。孔子之門、執典謁之役者不乏而使童子為之、故或疑之耳。「曲礼」言長幼、徂來斷以長為童子、有何徵「曲礼」之文。又舉對問之語、示謙耳。即以為古之道固矣哉。且其上文曰「問大夫之子、長日能御」、以童子為御者、古之道耶。下文曰「問庶人之子、長日能負薪」、使童子負薪、古之道邪。「曲礼」又曰「士辭以病。言曰『某有負薪之憂』」。士之躬負薪、亦古之道耶。

[21 b]

○衛靈

貞而不諒章

「諒」者、謂求信於人也。如「亮察」「亮鑑」、皆求信意。

甚矣哉。物翁之闇於文字也。「亮察」本「請亮察」「幸亮察」之略語、與「照察」「照鑑」意同。「照」字豈有求照於人之義、然句端宜「亮察」「照鑑」、雖無「請」「幸」字、為「求諒」「求照」之義。是固俗套文字不足以語文章。徂來每言以古文徵古文、今乃舉俗套文字欲以解「論語」、何鑑也。

文中「易依中以正」解「東下」音近故也。

音近而相通者、古有之、以音近而義相肖者、古無之。

○季氏

三畏章

「畏」者「威」之轉音。

[22 a]

「畏」「威」同字、不特轉音。徂來好說古字通用、大率牽合附會。至于同字者、却不知之、僅以轉音為說、可憫夫。

又仁齋言「吉凶禍福」而不言「順逆」、故足為君子之畏乎。

又曰、「孟子」所以謂「夫紂者、以明之所棄即天之所命也」。

「故」字與「乎」字不相應。「追加」「即」字「命」字不可曉、「追加ここまて」徂來之拙乎文、往々如是。不勝枚舉。

又聖人尊天之至、唯曰「天知我」、而未嘗曰「知天」焉。

聖人即不知天、何知天之知我、而敢言天知我也。故天知我者、便知天者之語矣。若曰我雖不知天、就中唯知天之知我、豈有斯理乎哉。徂來之泥乎文、若是乎。

○陽貨

性相近章

孟子則主仁義內外之說、豈一哉。

告子以為仁內義外、孟子則謂一是在內、然則仁義內外之說者、可以語告子、非所以論孟子也。徂來之疎於修辭、往々如是。

[22] b

武城章

吳有子游祠、則子游亦終有悟於孔子之言、遂不終為魯臣而去歟。

夫先哲之感後人、遠矣。至其邑人子弟往々為立祠致欽慕之意以為閭里之榮、不必其丘墓也。『史記』稱「言偃、吳人也」。吳人之立祠、不亦宜乎。若唐宋諸賢亡論其桑梓丘墓曆官州郡皆立祠、可以見也已。徂來之謂、不亦泥乎。

【校勘】○泥乎…以下、「以吳有子游祠、為其去魯而死于吳、無稽之甚。並彼好古、唐末以下其為不足為擬乎。楚有伍子胥廟至宋而□焉□」が塗抹されている。

詩可以興章

興者、從其自取、展轉弗已、是也。朱註「感發志意」者、觀也、非興也。

[23] a

本文下箇「興」、宜就「興」字求其義、則興「作興」「興起」之興。朱註感發意志、不亦善乎。如徂來說、是「取…已」二句八字、莫一字當「興」字。然則本言何故不言「詩可以取」而言「可興」。是知非變改『論語』本文、不能充徂來之操矣。

牆面章〔*子謂伯魚章〕

後世儒者——窮措大解。

所謂後世儒者、主朱子而言也。朱子生於宋末、雖不得遭遇而行道、而當世士流其景慕者至矣。其修身制行固非徂來之徒所與知、姑就其外者而論之。一時豪傑如陸子靜雖學不合、猶言朱元晦泰山喬嶽天下第一人、陳同父言「朱元晦人中之龍也」。其餘可知矣。其高臥山林天子虛懷望來宰執以下、忘其勢致書通懇勸、勸其一步向闕(?)天下士庶黔(?)首相一視其風采、然而無所遇天也。然則其為當世士君子也、〔23 b〕可謂有餘矣。然若謙之未自足者、何也。非未至聖人耶。徂來乃為朱子願為當世士君子、是欲責虎以為羊、推豫章為獼猴之杙也。不亦悖乎。徂來豈以政事而言耶。朱子治荒政勸豪猾字(?)憔悴為仁政於不可為之時、救人於死數十萬矣。社會之政、遂為天下之法、載在史冊、風声布天下、豈重來山謝老(著)(?)邪。一時姦邪韓侂胄之徒(著)(?)恐其為大用而害口也(?)百計沮之鍛鍊羅織、然而道學之目興焉。徂來亦好以道學相垢罵。噫、徂來亦韓侂胄之徒也。朱子罷官廢處、清貧不自給景如(?)也。徂來豈以是為窮措大解。夫貧士之常時不我以豈冒昧爭利祿取富貴乎哉。即以是相罵乎。孔子在陳絕糧、孔子亦窮〔24 a〕措大耶。且徂來功名利祿之徒耳。故謂士雖知說書論古、能修身正行而不得位而治民者舉窮措大也。今姑以功名利祿而論之、朱子雖不居宰相之位以握天下之柄而官領州牧、而職侍從、爵侯伯、而祿萬鐘、正笏上殿親與天子上下其議論、亦不至於徂來鬻斗升之祿、淪身於嬖倖之門。(見せ消ちあり

：「解詁難」窮措大之目將何所歸也已。抑□□置儒□牛巫巫倖僂□十技者、無以異也。抑徂來以其剽竊韜襲文辭、眩惑愚人、誤致虛譽、而名不得上於君子之籍者、豈不以復得無可稱耶。〔24 b〕即若徂來者務學以為當世士君子、固其所也。其不敢永為聖人、亦自知之明、不可誣者、而為當世士君子所鄙笑。可憫夫。

礼云章

其人不尊信聖人——

其人未尊信聖人、而吾教之欲其尊信、則不以言導而何以哉。孔孟轍固於天下欲一遇於尊信聖人之君而弗可得道（？）、必也教之誨之、使知尊信聖人之道、而後聖人之道、可得而行矣。乃一任邪說之橫流而弗之辨、竦人之自悟而尊信聖人、豈孔孟遑々望天下之治之意也哉。

〔25 a〕

古之矜章

「矜」「矜」通用。老而無妻亦自守太過者所為也。

妄言有如是者、不復用辨之。

○微子

逸民章

其所以隱居者在潔其身、是合於古聖人之道、故曰「身中清」。

徂來常執「作者謂之聖」之語、曰「後儒皆不知聖字」。故於孔子聖若有所慊。然輒迂回其說曰「孔子有當制作之任之德、得時當制作、故謂之聖耳」。

今言聖人有隱居之道、制作與隱居、何啻天淵。可見遁辭之出於窮矣。彼又

細宋儒以独善其身、曰「是達磨惠能也已」。何不罵虞仲為達磨、呵夷逸為惠能、乃言潔其身合於聖人之道、豈載在『論語』者不能啓喙乎。是不然也。徂來〔25 b〕於儒者莫不詆譏。唐宋以下為無知、雖似取漢儒唯□其近于古而取其相傳之說而已。故曰「漢儒笨乎」。曰「漢儒卑陋」。至于子思孟子最其寇讐耳。其侵陵業已如是、即遂詆孔子、則世人必目以異端、不復以儒者視之。徂來之所憚、唯斯而已矣。故每迂回穿鑿自附于孔子、以欺弄聖人語以濟其邪說耳。彼蓋亦不自信其說、徒以媚于世云爾。噫、功利之徒、可與言乎哉。

【校勘】○□：「取」を見せ消ちする。「考」か。

亞飯干章

今有亞飯而無初飯、則知初飯不須侑也。

樂為侑食、則初飯固無須用。然以『論語』之文為証、則謬矣。當時若有初飯而某人或困循不去、或有他故不及行、記『論語』者必書「初飯某則不去」乎。是理之所無矣。

【校勘】○以『論語』之文為証：「徂來之說」を見せ消ちにして書く。○書：「記」を見せ消ちにする。

〔26 a〕

八士章

今俗惡双生、必殺其一、原諸人情、雖古亦然。

余生長於王畿之內、見愛養双生衣服帶鳥粲乎如連珠者。未聞有惡双生而殺其一者。訪之故老莫不然者。或東陲西裔薄惡之俗、適有之耳。徂來生長於

東陲適見之、未知王畿之內無是惡俗也。乃謂海內皆然、不亦誣乎。乃遂謂三代之治而嘗有是俗、不亦已甚乎。且父母殺子、謂之人情、豈儒者之言也哉。大凡其偏見無稽敢言不慚者、皆類乎是。然世人闇乎文字者、往々為其恐嚇吠影傳聲、為明智之儒雖有明辨審折以闢之、而不能信也。故是一節雖細瑣不足辨者、揭而示之、盍視於斯以概其餘焉。

[26 b]

○子張

信而後勞章

後世浮屠尚能窺是意。其言曰「仏法大海信為能入」。

浮屠所謂信以信法而書。意謂唯能信法之人可以入道也。非人信我之謂也。乃援以為据而不知其說之相悖也。徂來之鹵莽如斯。

○堯曰

夏道篆文相近〔*首章〕

篆文夏与道相去天淵。徂來蓋不知篆文妄大言誑無知者。小人哉。

不知命章

注疏本此章作「孔子曰」、朱子本作「子曰」。

是細故、何足論。彼輒拾掇指斥以求疵於朱子者、可謂不遺餘力矣。特不知作「子曰」於文為順、非所以為疵也。〔27 a〕且以余所觀、唯皇疏本作「孔子曰」、昺疏本有二本、一作「子曰」、一作「孔子曰」。嗟乎、徂來之不博於聞見、因不足責而小人之狀態發露無餘、孰謂細故而可忽哉。

[28 b]

大聖而聖大賢

吾試有問於徂來曰「堯舜禹湯文武周公、聖人与」。彼將曰「然」。孔子亦聖人与。彼將曰「然」。顏子聖人与。彼必曰「非聖人也」。然則賢人与。彼必曰「然」。然則与宰我子貢有若等与。彼必曰「顏子庶幾乎孔子者、惡与之數子等」。然則宰我子貢有若非賢人与。彼必曰「否。皆賢人也」。然則顏子之賢大於宰我子貢有若、而庶幾乎孔子者也。孔子聖人也。庶幾乎聖、故謂之而聖、何不可之有。彼雖不喜孟子極々醜詆、亦必不以為宰我子貢有若之等也。亦必不敢与顏子同科也。然則孟子之賢出於宰我子貢有若之賢而為顏子之次也。故謂之大賢而聖之次、亦何不可之有。

〔原裏表紙〕

[29 b]

徂來 外乎礼而語(？) 治心之道、皆私智妄作也。

(大阪府立工業高等專門学校准教授)